

日本初記録のタイワンオオヒライソガニ (新称)

Varuna yui HWANG et TAKEDA について

一寸木 肇・石原 龍雄

A New Record of *Varuna yui* HWANG et TAKEDA
(Crustacea, Brachyura) from Japan

Hajime CHOKKI and Tatsuo ISHIHARA

During the ecological survey of the freshwater crab, *Varuna litterata* (FABRICIUS), in the Sakawagawa River, Kanagawa Prefecture, central Japan, some crabs closely allied to *V. litterata*, but distinct from it, were obtained at the stations about 400–600 m up the river–mouth on July to September, 1986. They were identified with *Varuna yui* HWANG et TAKEDA, 1986, which was newly described on the specimens from Taiwan as the third representative of the genus. According to the original authors, *V. yui* is also known from Cebu, the Philippines, but there is no subsequent record from the other localities. Thus, the present record is the first in Japan.

はじめに

1986年7月から11月にかけて、オオヒライソガニ類の調査を酒匂川河口付近で行ったが、7月26日、8月10日、9月2日に採集された計6個体は、現在、日本で知られているオオヒライソガニ *Varuna litterata* (FABRICIUS, 1798) ではなく、同年7月に台湾北東部産の個体に基づいて記載された *V. yui* HWANG et TAKEDA であることが、標本を比較検討した結果判明した。本種は日本初記録なので、ここに報告する。

採集地および方法

これらのカニが採集された地点は、小田原市酒匂川の河口より約400~600m上流で、感潮域上部にあたるが海水の影響はない。また、採集時は干潮にあたっていたため、約0.3m/sの流れがあった。(図1, 2)

7月26日の夜に採集された1匹はテトラポッドの水中部分に登っていたが、他の個体は、岸寄りで水深20~30cmの礫底に点在する直径30cmぐらいの浮き石の下や、板切れの下に潜んでいた。

なお、採集は玉網に足で追い込む方法で行った。

観察結果と考察

オオヒライソガニ属 (Genus *Varuna* H. MILNE EDWARD, 1830) には、いままでにザンジバルから一

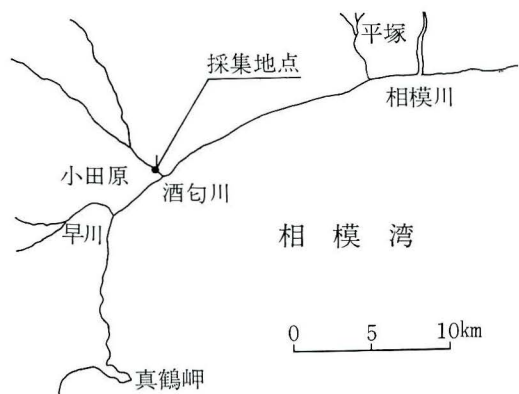


図1 採集地点



図2 採集場所の景観

度だけ記録された *V. tomentosa* PFEFFER 1889 と、広くインド洋、太平洋海域に分布し、相模湾を北限とするオオヒライソガニ *V. litterata* (FABRICIUS, 1798) が知られている。オオヒライソガニは東南アジアからインドにかけての各地で広く食用とされる。

オオヒライソガニについて、神奈川県内では、蒲生 (1958, 1965), 加藤 (1974), 酒井 (1976), 池田 (1981), 一寸木・石原 (1985) の報告がある。

1986年7月に HWANG と武田が、台湾北東部より採集された個体を新種として記載し、*V. yui* と命名した。本種はフィリピンのセブ島からも採集されている。今回日本でも記録されたことにより、基産地の名をとって、タイワンオオヒライソガニ (新称) とする。

今回採集されたタイワンオオヒライソガニの個体は下の表に示すとおりである。

個体	性別	甲長(mm)	甲幅(mm)	採集年月日
No. 1	♀	25.2	25.9	1986年7月26日
No. 2	♀	31.8	33.0	"
No. 3	♂	25.2	26.8	1986年8月10日
No. 4	♂	35.0	37.7	1986年9月2日
No. 5	♂	35.3	38.4	"
No. 6	♂	36.5	39.4	"

タイワンオオヒライソガニはオオヒライソガニとたいへんよく似ている。しかし、甲が平滑であり、丸味を帯びている。また、雄の腹節については、第6腹節のはりだしが少なく、ゆるく湾曲している。(図4. B) 生時の体色は、甲や歩脚は茶褐色〜褐色であり、鉗脚には鮮やかな橙褐色が認められ、オオヒライソガニより美しい。(図3)しかし何といっても本種の特徴は、雄の第1腹肢の形態がオオヒライソガニとは著しく異なっていることである。両種とも第1腹肢は石灰化がかなり進み、先端は剛毛でおおわれているが、その剛毛を除去して比較すると、開口部やキチン質でできたへり状の部分の形態が明らかに異なっている。(図5)

なお、HWANG・TAKEDA (1986) では、雌の腹節の形態について、両種に差異が見られるように記述されている。しかし、7月26日に採集された雌(甲長31.8 mm, 甲幅33.0 mm)が8月21日に脱皮した際(脱皮後甲長37.6 mm, 甲幅39.1 mm)、卵形の腹節からカニ類の雌の成体に見られる円形の腹節に変化した。このことから HWANG・TAKEDA (1986) が報告した雌は亜成体のものであると考えられる。脱皮後の腹節をオオヒライ

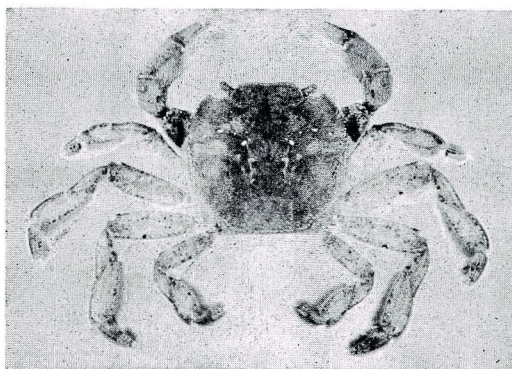


図3 *Varuna yui* 雄 甲長36.5mm・甲幅39.4mm

ソガニと比較してみると、形態に差異は認められない(図4. C. D)。

生息場所については、神奈川県西部の河川において微妙に異なっている。オオヒライソガニが比較的川の流が停滞した砂泥底から採集され、体表には泥が付着していることが多いのに比べ、タイワンオオヒライソガニは流れのある石の下などから採集されている。また体表には泥などの付着物は認められない。このことから両種は互いにすみわけている可能性がある。

なお、9月、10月、11月にも酒匂川河口付近を調査したが、本種は採集されなかった。しかし、オオヒライソガニ類の稚ガニは、けっこう見ることができた。池田(1981)はオオヒライソガニを1967年12月17日に、葉山沖の水深5〜7 mの地点から採集していること、また、タイワンオオヒライソガニを飼育してみると歩脚を使ってよく遊泳することを考え合わせると、両種とも海へ移動して越冬することが十分に考えられる。

また、本種は西日本でも発見される可能性が高いが、現在までオオヒライソガニと同定されたものの中には、本種が含まれている可能性も非常に濃い。今後、各地で採集された標本を再度検討する必要がある。

謝 辞

この稿をすすめるにあたり、国立科学博物館の武田正倫博士には、標本を同定していただくとともに貴重な御助言を賜った。また、日本甲殻学会々員の池田等氏ならびに小田原市立前川小学校の石塚大輔君には、オオヒライソガニの標本を提供していただいた。飼育にあたっては、箱根町立大涌谷自然科学館々長の菅井清登氏に御便宜をはかっていただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

文 献

一寸木肇・石原龍雄 1985 神奈川県西部の河川で採集されたオオヒライソガニ *Varuna litterata* (FABRICIUS) について, 大涌谷自然科学館調査研究報告, (5): 30-32.

HWANG, J.-J. and M. TAKEDA. 1986 A new freshwater crab of the family Grapsidae from Taiwan. Proc. Soc. Japan. Syst. Zool., (33):

11-18.

池田 等 1981 相模湾で採集された蟹類—相模湾産蟹類目録(I)—. 神奈川自然誌資料, (2):

11-22.

酒井 恒 1976 日本産蟹類. 講談社, 東京

(一寸木肇: 南足柄市立向田小学校, 石原龍雄: 箱根町立大涌谷自然科学館)

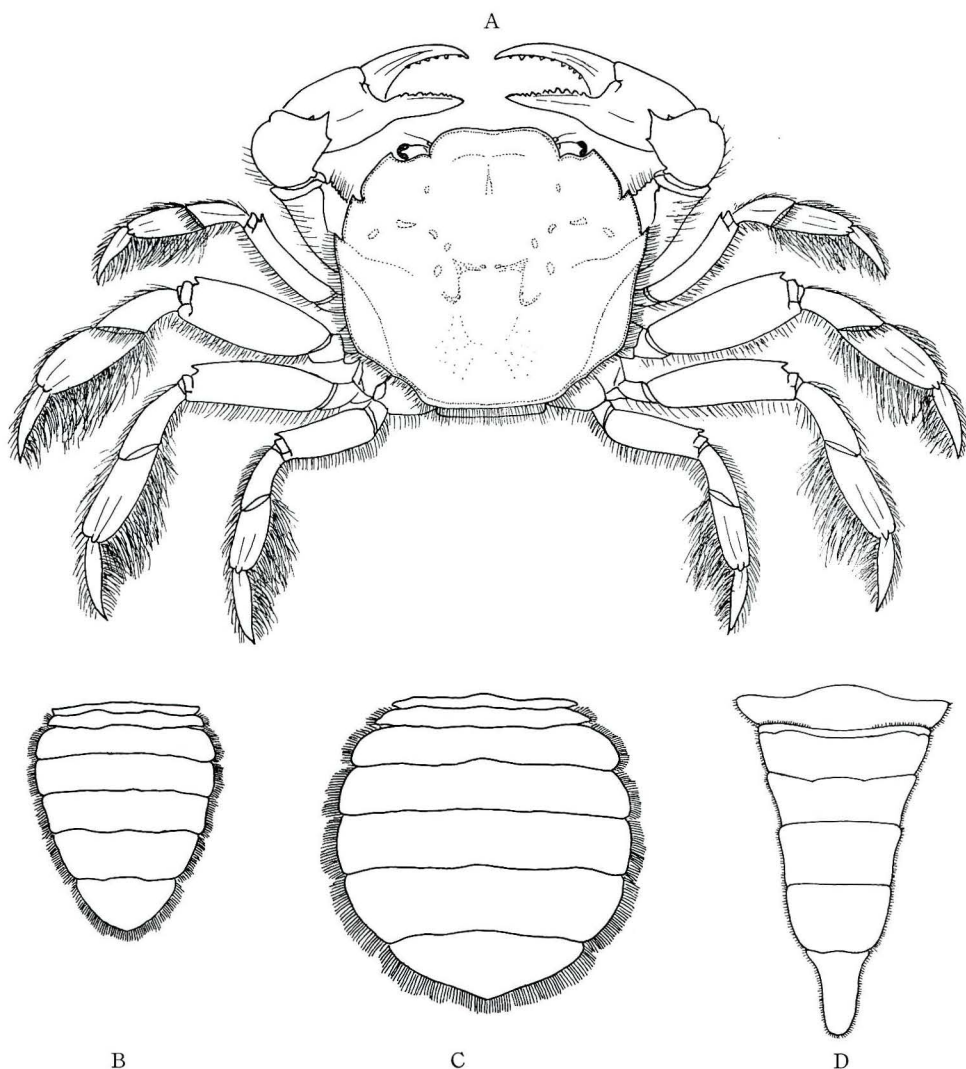


図4 タイワンオオヒライソガニ *Varuna yui* HAWNG et TAKEDA 1986

A: 雄 甲長36.5mm 甲幅39.4mm B: 雄 腹節

C: 雌 成体 腹節 D: 雌 亜成体 腹節

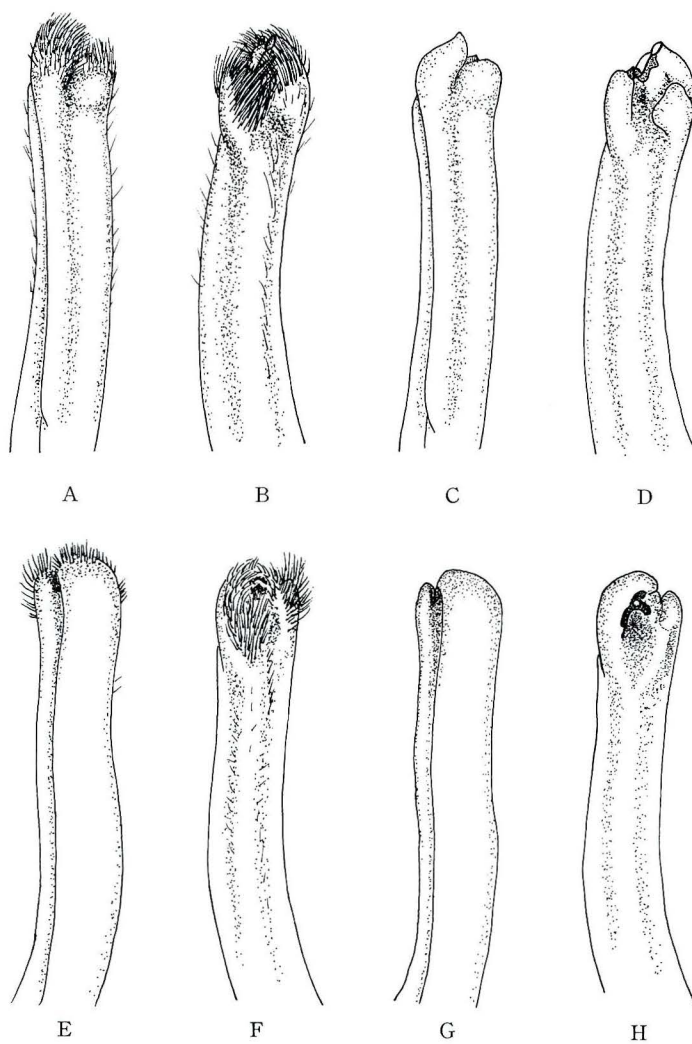


図5 A~D *V. yui* HWANG et TAKEDA の雄の第一腹肢
 E~H *V. litterata* (FABRICIUS) の雄の第一腹肢
 A, E: 腹面から見たもの B, F: 背面から見たもの C, G: 剛毛を取り
 除いて腹面から見たもの D, H: 剛毛を取り除いて背面から見たもの